

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人日本ペルー共生協会

1 事業の趣旨・目的：

「十分ではないスペイン語（母語）、十分ではない日本語」の言語形成の環境の中で育っているスペイン語圏出身の子どもたちが地域の学校に在籍している。保護者自身が日本の学校制度での教育経験がないために言語上の困難の上に日本の学校教育の制度を十分理解していないという困難を抱えている。日本の学校教育を理解できる人を増やし、日本及び出身国双方の社会に貢献できる人材の育成を目指し、この講座では学校と保護者、子どもの間をつなぐ役割を果たす人を育てることを目標とする。今年度は積極的に他都市の団体との情報交換を行いスペイン語圏でのネットワークを構築していく。このように、小学校、中学校に通う「外国につながる子どもたち」の支援をしているバイリンガル指導者が、子どもたち並びに自分の置かれている状況を知り、自分の母語あるいは日本語での指導を振り返り、より良い指導者に育つことを目的とする

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月22日	町田市民フォーラム	パラシオス 川合胤臣 矢沢悦子 平田スサナ 小林ホルヘ 高橋悦子	今年度の計画最終見直し、各担当者決定、場所の決定	見学訪問先の確認連絡 年間の教室
9月25日	町田市民フォーラム	パラシオス 川合胤臣 矢沢悦子 平田スサナ 小林ホルヘ 高橋悦子	開始直前の全体の調整 連絡の確認	依頼した先生方への確認、会場の予約確認、 原稿の執筆者からの確認事項

1月8日	町田市民フォーラム	パラシオス 川合胤臣 矢沢悦子 平田スサナ 小林ホルヘ 高橋悦子	今年度の反省	講義の反省、プラス点、マイナス点の見直し
------	-----------	---	--------	----------------------

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名: AJAPE バイリンガル指導者養成講座
- (2) 養成講座の目標: 日本語、スペイン語を使用し日本及び出身国の社会に貢献できる人材を育てることを目標とする。
- (3) 受講者の総数 12 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 ペルー共和国 8人, ボリビア共和国 1人, 日本人 3人)
特別講義(オープン参加受け付け 18人)
- (4) 開催時間数(回数) 3 時間 (12 回)
- (5) 参加対象者の要件: 日本語能力検定試験2級以上(講義は日本語で行うこともあるのでそれが理解できる程度の日本語の力)
- (6) 受講者の募集方法: スペイン語のコミュニティ全国紙新聞 IPC に掲載
- (7) 研修会場: 大和市貸会場、群馬県伊勢崎市伊勢崎市紺の里、横浜市、浜松市
- (8) 使用した教材・リソース:
 - ・大和市外国人保護者の為の冊子「たのしい学校」を市の許可を得て印刷
 - ・子どもの日本語指導教科書(JSL授業づくり各教科、カリキュラム解説、子どもの日本語、かんじだいすき、日本語学級、Japanese for young people1,2,3)
 - ・大和市使用の教科書
 - ・ペルーの算数
 - ・Y市内小学校の教案

- ・外国人児童生徒の為の各地域のカリキュラム
- ・各地域の取り組みの報告書
- ・三重県国際交流協会の情報、取り組み

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月17日 9:00～ 12:00	オリエンテーション 自己紹介 指導者の役割の話し 合い(学習者のこと、 教える内容、教え 方、保護者や地域の こと)	矢沢 悦子 高橋 悦子	7名
10月17日 13:00～ 16:00	日本の学校制度 —小学校— 制度、教科を始め、 子どもたちの異文化 衝突事例・学習面・ 生活面の説明、その 後ディスカッション	Edベンチャーボランティ ア団体 理事(元小学校教諭) 内藤 順子	8名
10月30日 9:00～ 12:00	バイリンガル教育 「教育の場での通訳 を考える」、教科教育 のワークショップ	高橋悦子 平田 スサナ 矢沢 悦子	8名
10月30日 13:00～ 16:00	多文化教育の指導 に関して/現地見学 ①(英語、スペイン 語、日本語、ポルトガ ル語での授業)	平田 スサナ 津嘉山 ドリス 矢沢 悦子	8名
11月6日 9:00～ 12:00	現地見学②/横浜 ABC ジャパン (鶴見区のボランティ ア指導見学、指導者 の学習カードによる 引き継ぎについての 説明。ボランティアの	矢沢 悦子	6名

	悩みなどを聞く)		
11月6日 13:00～ 16:00	日本の学校制度 —中学校— 国際教室担当教師 の説明、質問、ディス カッション)	神田 由美子 (大和市立渋谷中学教 諭)	5名
11月11日 10:00～ 12:00	現地見学③/浜松ム ンド デ アレグリア (スペイン語での授 業見学、実際に現場 で指導している人か らの説明、自分達の 指導に重ねての討 論)	ホセ ベガス 山本 ケイ子	5名
11月11日 13:00～ 15:00	現地見学④/浜松ム ンド デ アレグリア (日本におけるバイ リンガル、あるいはス 페인語での教育の メリット、デメリットに 関しての話しあい)	矢沢 悦子 米沢 ルリコ	5名
11月21日 9:00～ 12:00	日本語の教え方Ⅰ (日本語とスペイン語 の特徴を考えながら の指導について。言 語能力の測り方につ いて)	矢沢 悦子 高橋 悦子	10名
11月21日 13:00～ 16:00	日本語の教え方Ⅱ (授業設計:「導入」 「基本練習」「応用練 習」について)	矢沢 悦子 高橋 悦子	10名

12月12日 9:30～ 12:00	特別講義 発達障害のある子どもたちへの支援教育 (先生の体験を交えながら注意する点の話。特別支援学級のコンセプト＝隔離ではなく普通学級でのサポート) その他質問に答えていただく	阿久澤 栄 玉川大学教職大学院 准教授 阿久澤栄氏 専門「特別支援教育と不登校」	18人
12月12日 13:00～ 16:00	実習授業見学 全体振り返り (外国籍児童に対する「算数」の一桁の掛け算の計算と文章問題と「国語」の教科書「お手紙」の授業を見学した後話し合いを行った。	高野 菜穂子 小林 ホルヘ 矢沢 悦子	8人



オリエンテーション



群馬 平田スサナさんの講義

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

1. 期待していた学習ができましたか。

☐ はい **6名** → それはどんなもの・ことですか

- ・ 日本語の教え方を実践的に勉強できました。
- ・ 子どもたちへの学習支援の仕方について：外国人の子どもたちの状況、環境、日本語の理解や困難などを体系的に学ぶことができた。講義やフィールドワークが組み合わさっていて、現場と理論の両方を知ることができたと思っています。
- ・ 先生方のいろいろな考え方を伺うことができてとても勉強になりました。
- ・ わからなかったことを分かるようになったので、よかったと思います。
- ・ 実践的な指導方法を具体的に学ぶことが出来てとても勉強になりました。10/17 の実際に学校教育に携わる教員の方のお話は、教育現場の状況などが分かり、子供達と接する上でとても参考になりました。11/21 の日本語の教え方では、日本語を母国語としない子供達の見方から立って、言葉を教えることの難しさを改めて実感し、注意すべき点等が確認できました。

- ・ 土、日はきつかったですが、いろいろなところへ視察へ行けて、他分野の人とも話できて良かったです。どうもありがとうございます。
- ・ 見学はできれば学習支援（授業）をしている所を見たいです。今度も教師や専門家などいろいろな方々からお話を伺いたいです。
- ・ 次回も講師の方（阿久澤先）のお話を伺いたいです。
- ・ 長い時間をやらないほうがよいと思う。
- ・ 授業内容はバイリンガル指導者として求められる能力養成として構成されていますが、「教育支援」について考えさせられる意義のある内容でした。
- ・ 今回は日程が合わず、専門的な講義聴講や現地見学の機会を逃してしまいました。今後、機会がございましたら、積極的に参加させていただきたいと思います。
- ・ 見学は良かったが、今回は、自分が子供たちの支援をするにあたってあまり役立つ授業が見られなかった。経営者の話も大切だと思うが、実際に教えている先生方の話も聞きたかった。
- ・ 時間がなく、参加者の日程の都合もあり難しいとは思いますが、実習授業は全員が授業をすればお互いに意見交換ができ、指導する時に役立つ情報が得られるのではないと思う。

- ② 実施主体からの研修内容結果評価:今年も 2 言語を使用して真剣に日本の学校の教育に取り組もうとする人の参加があった。多い人数で漠然と議論するよりより深めあった議論ができて有効であった。

また特別講義の折には参加者も多くあり外国人の教育が単に言語ではなく言語と言語のはざまに育つ問題を抱えている子どもの存在が少なくないという印象を受けた。現場でそれぞれ悩んでいる人達の参加が多かった。教育実習見学(外国籍の子どもにお願いして実際に授業を行った)も評判がよく聞いて本で学ぶ学習方法もあるが改めて実際の授業を見ることからはじめられるのだということを改めて感じさせられた。他方厳しい評価をすると日本語が母語ではない人の日本語での学習の困難さが改めてわかった。

- ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画:このような講義を継続的に行うことこそ意義があると感じられた。リピーターの参加者もあり今年度の一番の喜びは3年間養成講座に通ってきていたペルー人の生徒が次第に成長して群馬県の支部で日本語教室を運営したことであった。その上に教育委員会でバイリンガル教師として採用されたことである。また他の一人はしっかりと高校、中学、小学校の現場で学んだことを実践に生かして仕事をしている。本年初めて参加した人も将来はさらに実力を磨きがんばって欲しい。

(11) 事業の成果

- ① 他事業との連携:今年度は群馬との太いパイプができた。群馬県の伊勢崎近辺の人々が100名近く新たにAJAPEの教室に参加した。群馬から通ってきていた受講生が成長して群馬のグループを運営してくれたことはスタッフにとっても本当にうれしい出来事であった。浜松のM校とのパイプもできたので今後どのような方法でこれらのグループを結びつけるのか模索していきたい。日本在住の人々のスペイン語つながりでのネットワークを少しずつではあるが広がってきている。
- ② 研修後の人材活用:2つの背景を持っている若者が少しずつ成長して後続く人々の指針となって欲しい。そのためには意図的な教育がとても重要であるとする。さらなる講座の充実を図りたい。

- (12) 今後の課題:経済的に不安定な人々を支援するのには受益者負担の方法ではうまく続かない。今後私達の活動を認めてもらい恒常的に支援ができないものかと頭を悩ませている。具体的には教育の場でのスペイン語圏の人達へ専門的な支援が可能になってきている。各地域でスペイン語で活動している人に対しての情報提供や基礎知識の伝授、トレーニングはこれからも必要である。日本国内の教育現場のスペイン語圏のネットワーク構築が必要であると考えている。